

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記3

国立市立国立第七小学校

平成27年10月23日 NO.58 (258)

オー君 「モンタ博士！けっこう前^{まえ}だけど、『昆虫^{こんちゅう}の足^{あし}』についてのお話^{はなし}は、
とっても楽し^{たの}しかったです。」

花ちゃん 「そうですね。とてもためになり、勉強^{べんきょう}になりました。」

オー君 「そこで、今回はオー君と花ちゃん^{こんちゅう}で『昆虫^{はね}の羽^{はね}』について考え^{かんが}たり、調べ^{しらべ}たりしました。」

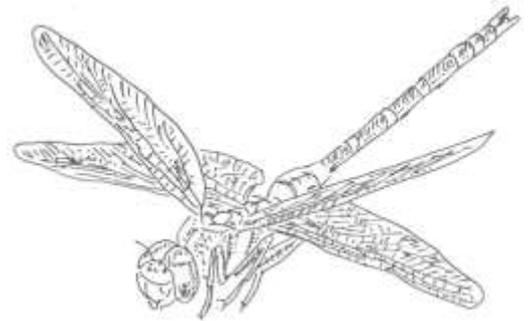
モンタ博士 「ほほー。それはすばらしいね。楽し^{たの}みだ！」

オー君 「まず、ぼくたちは、トンボの羽^{はね}について考え^{かんが}てみました。」

花ちゃん 「考え^{かんが}るということで、トンボをじっくりと見^みたり、よく観^{かん}察^{さつ}しました。」

モンタ博士 「それで、それで・・・。」

オー君 「それで、発見^{はっけん}したり気がついたりし
たのですが、トンボの羽^{はね}はほとんどみんな、透明^{とうめい}であること、それからうすく
できていて、さらに網戸^{あみど}のように網目^{あみめ}
があることなどがわかりました。」



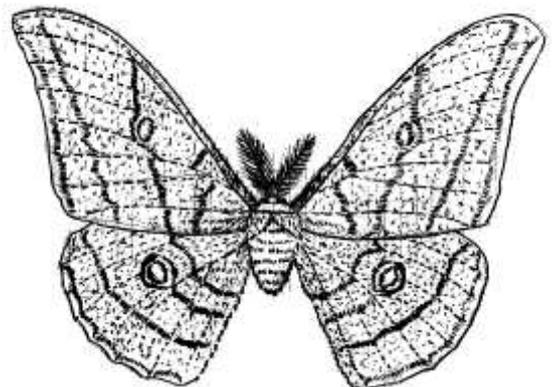
花ちゃん 「透明^{とうめい}であることにより、敵^{てき}の鳥^{とり}などに見^みつかりにくくなり、うすくできてい
ることにより、軽^{かる}くて動^{うご}かしやすく速^{はや}くとべて獲物^{えもの}をつかまえやすくなり、
網目^{あみめ}があることにより、羽^{はね}がじょうぶになるのではないかと考え^{かんが}たわけです。」

オー君 「つまり、トンボの羽^{はね}は、トンボの生活^{せいかつ}のしかたにとっても関係^{かんけい}があるというこ
とがわかりました。」

モンタ博士 「ほほー。なるほど。それはすばらしい！」

花ちゃん 「それから、チョウやガについてですが、
羽^{はね}は、大き^{おお}くてかたい筋^{すじ}がある
ことがわかりました。」

オー君 「チョウやガの羽^{はね}は他の虫^{ほか}を捕^{むし}まえるため



ではなく、花の蜜をすったりするためにあちこちとぶのが目的で、早くとぶ必要はないんです。」

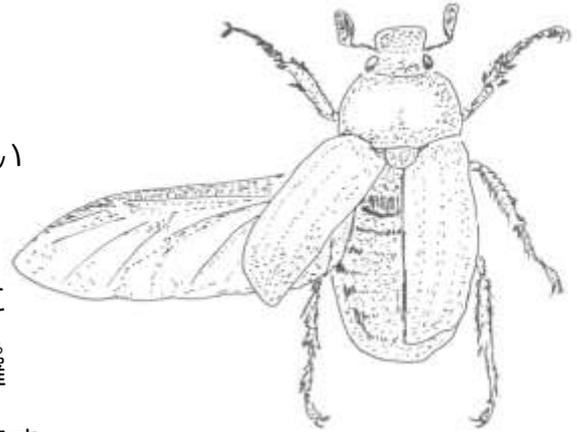
花ちゃん 「ひらひらととぶためには大きな羽のほうが便利なんだと思ったわけです。」

オー君 「それから、チョウやガやとぶためだけでなく、羽に模様などをつけて、敵に見つかった時、羽を開くことで相手を驚かすこともするんです。」

花ちゃん 「それから、私たちは、カブトムシやカナブンの羽を観察しました。」

オー君 「これらの虫は甲虫といって、かたい甲羅のような羽を持っています。」

花ちゃん 「前の羽はとてかたくて、鳥とかにつつかれても平気なんです。甲羅のような羽がガードしてくれるんです。」



オー君 「さらに、後ろの羽はうすくて、この羽を動かしてとぶことができるんです。」

花ちゃん 「つまり、かたい前羽は、浮力といって浮いたり、方向を決めたりするものであり、後ろ羽は活発にもものすごく速く動き、とぶ推進力になっているということがわかりました。」

モンタ博士 「いろいろなことがわかってきて、とっても楽しいね。」

オー君 「それから、秋は鳴く虫の季節だけど、羽をこすり合わせて音を出すことも羽の役目でもあるんです。それがコオロギやスズムシなどの虫です。」

花ちゃん 「羽をこすり合わせて音を出すのは、オスだけで、メスへのラブコールとかもあるそうで、とてもおもしろいと思いました。」

オー君 「おまけのお話ですが、セミも鳴きますが、これはおなかがふくらんでいて、タイコみたいにして音を出すそうです。だから、オスとメスでは体の作りがちちょっと違うんです。」

モンタ博士 「なーるほどね。いろいろなことを教えてくれてありがとう。つまり、虫にはいろいろな虫がいるけれど、羽を見ると、その虫のいる場所や、生活のしかたもわかるということですね。これからも自分たちでいろいろ調べてみよう。」